

6467 ニチダイ

古屋 元伸 (フルヤ モトノブ)

株式会社ニチダイ社長

経営戦略の再構築に向け、新規設備投資を推進する

◆事業の概要

当社グループは、ネットシェイプ事業、アッセンブリ事業、フィルタ事業の3事業で構成されている。ネットシェイプ事業は精密鍛造金型の製造販売、精密鍛造金型を使用した精密鍛造品の量産を行っている。主要顧客は自動車関係が8割を占めている。量産品のメインは、カーエアコンのスクロールコンプレッサーの部品である。国内の全自動車メーカー系列企業と取引があり、顧客とともに部品の開発を進めている。

アッセンブリ事業はターボチャージャー部品の組み立てをメインとしており、昨今はガソリンエンジン用のターボチャージャー部品の数量が増加している。納入先は三菱重工業(株)が100%である。

フィルタ事業はステンレス金網を一体構造化した金属フィルタを生産している。石油化学プラントや薬品、食品等の製造機械、ロケット燃料など、さまざまな分野で使用されており、昨今は船舶のバラスト水向けの用途が開拓されている。

ネットシェイプ事業およびアッセンブリ事業の生産拠点として、タイのバンコク郊外にニチダイタイランドの工場を設け、金型とスクロールコンプレッサーの生産を手がけている。フィルタ事業はタイ・シンタード・メッシュ社が生産拠点である。

◆2017年3月期の決算概要

2017年3月期の業績は、売上高141億47百万円(前期比0.8%減)、営業利益6億42百万円(同22.5%減)、経常利益6億43百万円(同16.0%減)、当期純利益4億24百万円(同12.6%減)となった。売上高・利益ともに第2四半期に下方修正した計画値はクリアしたものの、前期比では減収減益となった。

四半期別業績を見ると、上半期、特に第1四半期の不調が大きく影響したが、下半期より3事業とも回復し、第4四半期は四半期ベースで過去最高の売上高となった。

事業別売上高は、ネットシェイプ事業が68億16百万円(前期比6.7%減)となった。金型部門は国内が増加した一方、海外向けが減少、精密鍛造品部門はアッセンブリ部品の内製部品が増加し、鍛造品としての売上高が減少した。アッセンブリ事業は国内外ともに売上が伸長し、53億88百万円(前期比10.4%増)となった。フィルタ事業は石油掘削用フィルタが原油安の影響により売上が減少し、19億42百万円(同6.3%減)となった。

各事業の概況については、ネットシェイプ事業は金型(国内)の売上高が41億85百万円と前期並みを維持し、下半期は堅調に推移した。金型(海外)はアジア向けの案件が減少し、13億63百万円と前期比で6%減となった。金型部門全体では前期比0.9%減とほぼ前期並みで推移した。精密鍛造品部門は、国内が前期比28.0%減、海外が23.5%減と苦戦した。スクロール鍛造品が減少し、アッセンブリ事業向け部品内製が増加したことが主要要因である。

アッセンブリ事業は国内外ともにガソリンエンジン車向けターボチャージャー部品の売上が大幅に増加した一方、VGターボチャージャー部品は減少し、商品構成比が変化している。売上高は前期比10.4%増と好調に推移した。

フィルタ事業はバラスト水対策製品が増加した一方、海外の石油掘削用フィルタが減少し、売上高は国内が前期比 1.9%増、海外が同 27.6%減、全体で同 6.3%減となった。

セグメント別 P/L の状況は、ネットシェイプ事業の利益率が売上高減少の影響により 4.7%、アッセンブリ事業は製品構成の変化により 1.8%、フィルタ事業は海外売上高減少により 11.7%、全体としては 4.6%にとどまった。売上原価は前期の 79.5%から 81.0%と増加した。アッセンブリ事業の売上伸長により材料費が増加したことが主な要因である。減価償却費が減少しているが、償却方法変更によるものである。在庫はアッセンブリ事業の在庫減少に努めた結果、前期比で約 3 億円減少した。

B/S については、アッセンブリ事業の在庫減少により棚卸資産が減少した。流動負債のその他が増加し、固定負債のその他が減少しているが、リース債務の影響である。

キャッシュフローについては、営業活動によるキャッシュフローが棚卸資産の減少により好転した。

◆中期経営戦略について

自動車産業が電気自動車や自動運転等大きなテーマによる変革期を迎えていることから、従来のテーマをベースに経営戦略の再構築を実施する予定である。それに先立ち、経営体制刷新、設備投資を推進しており、昨年の執行役員体制導入により本年度は新たに執行役員 1 名を選任した。

自動車産業においては、次世代自動車の構成比増加、新興国市場の成長、部品の共通化、車の保有形態など、さまざまな変化が見られている。当社に対する開発要求やコスト削減要求が高まり、難加工材・新素材や新形状への対応が必須となる。従来とは異なった形で精密鍛造やネットシェイプの技術を生かしていきたい。

具体的な対応策として、新規プレス NFD1000 の導入や CAE 技術の活用に設備投資を実施している。従来の鍛造領域のみならず、板鍛造、複雑形状部品へ対応した開発、アルミ素材製品の開発強化を進めていく。

◆2018 年 3 月期の計画

2018 年 3 月期は、売上高 147 億円(前期比 3.9%増)、営業利益 7 億 40 百万円(同 15.3%増)、経常利益 7 億 20 百万円(同 11.8%増)、当期純利益 4 億 40 百万円(同 3.6%増)を見込んでいる。想定為替レートはタイバーツが 3.2 円、USドルが 110 円である。

事業別売上高は、ネットシェイプ事業は 69 億円(前期比 1.2%増)を計画している。金型部門はアジア地域向けの復調、精鍛造品部門は前期と同水準を見込んでいる。アッセンブリ事業は海外の売上増により 58 億円(前期比 7.6%増)、フィルタ事業は石油掘削用フィルタが引き続き低水準で推移するとみており、20 億円(同 2.9%増)を計画している。

今期の設備投資額は 11 億 40 百万円を見込んでおり、新たな金型の表面処理装置やアッセンブリの新ライン増設を計画している。

2017 年 3 月期期末配当は 10 円を予想しており、年間で 20 円となる。当期は法人化 50 年目の節目であることも含めた配当であり、2018 年 3 月期は安定配当として中間 8 円、期末 8 円、年間 16 円を見込んでいる。

◆質 疑 応 答◆

今期予想の下期が減益となる要因を伺いたい。

当期第 4 四半期が好調に推移したこととの比較により減益に見えるが、金型が好調に推移すれば見通しは変わってくる。

バラスト水関連は4方式すべてに使用されるのか。市場の見通しも伺いたい。

バラスト水は特定メーカーとの提携により開発しており、すべての方式に使われるわけではない。需要としては、2016年3月期以降実績が上がっており、当期は更に拡大している。

三菱重工と日産グループの統合により日産向けに製品が出ていく可能性はあるのか。

スクロール部品を三菱重工向けに納めており、その先は多岐にわたっている。本格的な動きが出ていないため今後の動向に注目している。

ガソリン車向けの売上高実績と今期予想を伺いたい。

ターボチャージャー部品は三菱重工1社に納品しているため、守秘義務により詳細は申し上げられない。

スクロール鍛造品やVGターボチャージャーの減少は上期の傾向が下期も続いたのか。

スクロール鍛造品の海外は為替の影響が大きく、実績としてはさほど減少していない。一方、国内は生産調整により減少したが、第3四半期が13億20百万円、第4四半期が15億60百万円と下期は回復した。

第4四半期が好調に推移した要因は何か。

ネットシェイプ事業は金型の好調な推移、アッセンブリ事業はタイが順調であったことが要因である。傾向としては、自動車メーカーにおけるターボチャージャーのポリウムが増加しており、今期も好調な状況が継続するとみている。

設備投資費が2億円弱増加し、減価償却費が減少した要因を伺いたい。

減価償却方法を定率方法から定額方法に変更したことが影響した。比率が増加しつつある海外事業の定額方法に合わせることに加え、量産型製品のウエートが増加したことにより定額法が妥当であると考え、変更した。

減価償却方法の変更は期中に行われたのか。

期初からである。

金型の計画について、アジア地域復調の背景は何か。

アジアについてはローカルメーカーの案件が多く、定期的なリピートよりも大きな金額案件が複数重なったものがメインとなっている。年によって大きく変動する傾向にあり、現在の感触として今期は復調を見込んでいる。

ディーゼルエンジン車向けのターボチャージャー部品がタイで回復するとのことだが、変化の兆候が見られているのか。

最終的な供給先は欧州などのメーカーであり、好調な需要を見込んでいる。

ターボチャージャー部品の新品種や新規品とは具体的にどのようなものなのか。

コストダウンやターボ性能など、顧客の受注活動の助けとなることに取り組んでいく。その中で新たな品種を獲得していきたい。

石油掘削用フィルタの見通しを伺いたい。

直近での動きはあるが、当社としては在庫の絡みもあり、低迷が続くと見込んでいる。

バラスト水関連が本格化した場合、業績に与える影響は大きいのか。

売上が10～20%増加するほどの大きなインパクトには至らないとみている。

計画値の利益増減分析を伺いたい。

アセンブリ事業の売上高増加に加え、各部門における増収効果に伴う増益を見込んでいる。

(平成29年5月9日・東京)

* 当日の説明会資料は以下のHPアドレスから見るができます。

<http://www.nichidai.jp/ir/irlibrary.cgi>